

## 文献紹介

## EBM

EBM を支援する米国国立医学図書館の活動：  
専門家から消費者へ

野添篤毅

医学図書館. 2001; 48(3): 290-299.

米国の EBM 活動を支援する情報サービスの中心機関として、ますますその活動を拡大、強化している NLM の現状について詳しく紹介。特に消費者向けの健康情報サービス MEDLINEplus の充実や顧客サービスの強化など、一般の人々も視野に入れたきめ細やかなサービス活動の内容とその姿勢に驚かされる。

EBM とは何か? : 医学図書館と EBM

三瀬順一

医学図書館. 2001; 48(4): 377-386.

EBM の概観を述べ、最後に医学図書館に対して10の提言をしている。概観と言っても大変丁寧かつ簡潔に説明がされており、定義から必要性、実践の流れまで、EBM のことが基本からよくわかる。提言では、「臨床を支える病院図書室の使命」も再認識するかもしれない。

EBM とリサーチライブラリアン

熊谷智恵子

医学図書館. 2001; 48(4): 387-392.

近頃ときどき見かける、図書館員としては気になる言葉「リサーチライブラリアン」とは? その背景から意味、期待される能力、展望までを解説している。EBM の概念から誕生した、新しいスペシャリストとなるのだろうか…?

## 情報サービス

患者及び家族の情報需要調査

向田厚子ほか

医学図書館. 2001; 48(4): 404-409.

著者らが行った、全国の24病院での3,300人余を対象とした「患者・家族の情報需要調査」の結果分析報告。多くの患者・家族が現在の医療情報環境に満足しておらず、より身近な専門情報機関の存在を望んでいる。そこに医学図書館員は関わっていくべきだと提言している。

遠隔医療における医学情報サービスの可能性

安藤越代

ほすびたるらいぶらりあん. 2001; 26(3): 216-219.

病院図書室の立場でどのように遠隔医療に関わっていくか。実施していく上でのサービス内容や、そのための準備や課題などが述べられている。図書館から隔たった地域の医療従事者に対して、図書館員ができることは何かを考えさせられる。

著作物の利用・引用のルールー著作権を正しく理解して著作物を適切に利用するために一

武村雪絵, 菅田勝也

看護教育. 2002; 43(2): 93-102.

著作権の意義、権利、保護等に関する法令を明解な言葉で説明し、利用、引用の際のルールからこれを侵害した場合の罪まで示している。著作者に限らず図書館員として理解しておくべき内容である。

INFOPRO への HOP! STEP! (連載: 第10回 INFOPRO 心得!)

井出尻千枝, 会誌編集委員

情報の科学と技術. 2001; 51(11): 591-595.

図書室担当者のパーソナリティをテーマに、プロフェッショナルとしての利用者への対応法がQ & A形式でまとめられている。利用者の要求をつかむためには、依頼者が何を知りたいの

## 文献紹介

か目的を明確にさせることが重要であるとし、困った依頼者への対応、難しい質問への対応、無理な注文をされた時の対処法などがわかりやすく書かれている。

### 電子ジャーナル

病院図書館で電子ジャーナルを活用するために熊谷智恵子, 手嶋恵子  
ほすびたるらいぶらりあん. 2001 ; 26 (4) : 273-278.

電子ジャーナル特集号の内容解説記事。電子ジャーナルの特徴や問題点、その現状やサービス形態について簡潔にまとめられている。これから電子ジャーナルのことを勉強してみようと思っっている方、導入を考えている方は、まずこの記事に目を通すことをお勧めする。

Electronic journal access : how does it affect the print subscription price?

Chen FL

Bull Med Libr Assoc. 2001 ; 89 (4) : 363-371.

電子ジャーナルの存在が印刷体の購読料にどのような影響を与えているのか、300タイトルの雑誌について5年間に渡り調査した結果の報告。まだ変動の大きい分野であり、結論には至っていないが、今後の継続研究が注目されるテーマである。

### その他

病院図書館の統計1 - 序論

田引淳子

ほすびたるらいぶらりあん. 2001 ; 26 (3) : 233-236.

病院図書館担当者のための統計という、おそらく今までにはなかったような連載が始まっ

た。今回はその第1回で、統計の必要性についての内容になっている。著者は統計指導も利用者サービスのひとつとして必要と述べている。

大阪大学附属図書館生命科学分館=医学・生物学系外国雑誌センター館における変化への対応  
藤井明

医学図書館. 2001 ; 48 (4) : 363-368.

外国雑誌価格高騰のため、日本における外国雑誌受入数が1990年から6年間で半減したという。大阪大学附属図書館生命科学分館では、外国雑誌センター館として特殊な資料の収集に特化するという資料収集方針に従い、今後大幅なタイトル入れ替えが行われる。国立大学の図書館はその他さまざまな面で変革を迫られている、ということなどが報告されている。

病院図書館員認定資格制度企画書を提出して  
現実と理想の距離

首藤佳子

ほすびたるらいぶらりあん. 2001 ; 26 (4) : 338-348.

1999年から2001年にかけて行われた近畿病院図書室協議会と病院図書室研究会との共同事業である「病院図書館員認定資格制度」に関する病図研会誌上での報告。病図協でも後日、別冊形式での報告を予定している。認定制度を企画する上での問題点と今後の課題が、著者の率直な感想とともに述べられている。病院図書館員という職業を明確化することの必要性とその難しさについて、改めて考えさせられる。

■文献の入手は、所蔵館へお申し込みください。

■「情報の科学と技術」・「Bulletin of the Medical Library Association」は協議会で購読しています。